

# 「SAPIX2030プロジェクト」紹介

## ～志望校の選び方とその対策編～

中学受験において、「志望校をどのように選んでいくのか」「入試に向けた対策をどのように進めるのか」ということは重要なポイントです。今回はサピックス小学部事業本部長の溝端宏光先生に、志望校選びと入試対策のポイントについて伺いました。あわせて、近年の入試動向を踏まえてサピックスが新たに実施する取り組みについても紹介します。

### 志望校の選択が多様化 “わが子”に合う学校選択を

近年の中学入試では、志望校選択の多様化が進んでいます。偏差値だけに頼るのではなく、学校の雰囲気や特徴を十分に理解したうえで、子どもに合う学校かどうかを見極めることが当たり前になっています。今年度は2月1日が日曜日に当たる、いわゆる“サンデーショック”の年でしたが、「こうした流れに大きな変化は見られなかった」と溝端先生は指摘します。学校選びのポイントについては、「多くの中学校の



先生が「まずは一度、学校に足を運んでほしい」と話しています。ホームページや口コミだけでは伝わらない雰囲気を、実際に訪問して感じ取ってほしいという思いがあるためです。中高6年間を過ごす場であるからこそ、学校側としてもミスマッチを極力減らしたいという思いが伝わってきます」と説明します。

では、実際に学校を訪問する際には、どのような点に注目すればよいのでしょうか。

まず押さえておきたいのは、「万能な学校は存在しない」という点です。どの学校にも長所と短所があります。短所ばかりに目を向けて評価すると、「どの学校も決め手に欠ける」と感じてしまいがちです。そのため、長所に注目して比較することが有益です。ただし、長所を適切に見極めるためには、学校に求める条件の優先順位をあらかじめ整理しておく必要があります。たとえば、進学校か付属校か、男子校・女子校か共学校か、通学時間の許容範囲はどれくらいか、宗教色の有無などが基本的な判断材料となります。さらに、グローバル教育に力を入れている学校、理系教育に強みを持つ学校、クラブ活動が活発な学校、情操教育を重視する学校など、私立中学校・高等学校には多様な特色があります。

「こうした点について親子でよく話し合い、重視するポイントとその優先順位を明確にしておくことが大切です」と溝端先生はアドバイスを送ります。条件を

増やしすぎると該当する学校が見つかりにくくなるため、優先順位をつけて整理することが重要です。

### 今年度から6年生前期に実施する サピックスオープンをリニューアル

サピックスでは、今年度から6年生前期に実施する模擬試験「サピックスオープン」をリニューアルします。名称を「前期合格力判定サピックスオープン」と改め、4月と7月に実施されます。なかでも大きな変更点は、試験会場の一部に中学校会場を設定することです。

これまでは、9月以降に行われる「合格力判定サピックスオープン」（今年度からは「後期合格力判定サピックスオープン」に改称）のみで中学校会場が設定されていました。しかし、学校選びに役立ててほしいという考えから、今年度より前期のサピックスオープンでも中学校会場が設けられることになりました。

「ふだんとは異なる環境で模擬試験を受けることは、試験本番に向けた貴重な経験となります。また、志望校として検討している学校で受験することで、学校選びの参考にもなります。説明会に出席できたり、校内見学が可能な場合もあるので、こうした機会を有効に活用いただきたいと思います」と溝端先生は話します。

### “標準”レベルの上昇により 入試問題がボーダレス化

続いて、入試問題の現状と必要な対策について見ていきます。近年の入試問題の傾向について、溝端先生は次のように説明します。

「中学入試に限らず、入試で求められる学力水準は年々少しずつ上昇していく傾向にあります。やや大げさに言えば、これは入試の“宿命”ともいえるものです。『出題』と『対策』の“いたちごっこ”が繰り返



サピックス小学部事業本部長  
溝端 宏光 先生

されるなかで、『受験生であれば身につけて当然』とされる内容が徐々に増えていきます。言い換えれば、入試における“標準レベル”そのものが引き上げられているのです。

近年の中学入試では、その要求水準が小学生の到達可能な限界に近づきつつあります。その結果として起きているのが、「入試問題のボーダレス化」です。かつては、入試の“標準レベル”が現在ほど高くなかったため、各校が独自に出題の工夫を行う余地が大きく、学校ごとに求められる学力にも違いが見られました。しかし、“標準レベル”の上昇に伴い、現在ではどの学校を受験する場合でも、求められる基礎的な学力に大きな差がなくなっているのです。

こうした状況から、二つの重要なポイントが見えてきます。一つ目は、「努力の重要性が増している」という点です。“標準レベル”の上昇により、「受験生であればできて当然」とされる内容をひと通り身につけるだけでも大きな負担となっています。そのため、必要な内容を確実に身につけること自体が、入試における大きなアドバンテージになります。

二つ目は、志望校対策の優先度が相対的に下がってきているという点です。「入試問題のボーダレス化」が進み、どの学校でも求められる学力に大きな差がないのであれば、特定の学校に特化した対策を急ぐ

よりも、まずは基礎学力の強化を優先することが重要だといえます。

要求水準の上昇により、受験勉強がさらに大変になるのではないかと懸念する声もあります。この点について溝端先生は「必要な知識を身につけるといふ観点では、受験生にとって負担が大きい状況であることは確かです。その反面、近年は極端に難しい問題の出題は減少しています。基礎となる内容を身につけるだけでも十分に難度が高いため、出題側としても大幅に難度を引き上げる工夫はしにくい状況にある」といいます。

実際に、今年度の算数では、受験生にとってヒントとなる情報を問題文に盛り込むなど、解答の手がかりを示す出題が一部の最難関校で見られました。現在の中学受験の勉強は、小学生にとって負担の大きいものではありませんが、極端な難問が減っていることにより、努力が結果に結びつきやすい側面もあります。いわゆる「地頭の良さ」といった不確かな要素だけでなく、日々の積み重ねが成果として表れやすい環境であるといえます。大変さはあるものの、努力が報われやすい現在の入試環境は、受験生にとって前向きにとらえられるものといえるでしょう。

### 志望校対策の“意義”と“限界” “安心感”は大切だが万能ではない

前述の「特定の学校に特化した志望校対策を急ぐ必要はない」という点について、溝端先生に詳しく聞きました。「サピックスでは、本格的な志望校対策を開始する時期を6年生の8月下旬としています。これは中学受験業界のなかでは比較的遅い時期に当たりますが、基礎固めに十分な時間をかけていることが、最難関校だけでなく幅広い学校でサピックス生が力を発揮できている大きな要因の一つ」だといいます。

基礎固めとは、単に知識を覚えることではなく、「正しく知ること」「深く知ること」が重要です。サピ

ックスは難関校に強いことから、「難しい問題ばかりを扱っているのではないか」と思われがちですが、実際の授業で重視しているのは、「なぜ?」「どうして?」と、問い掛ける姿勢です。知識は与えられるだけでは十分とはいえず、みずから試行錯誤することで、実感をもった理解へと高めていく必要があります。その積み重ねが応用力の養成につながります。

「こうした学びを実現するためには、一定の時間が必要です。必要なことに十分な時間をかけ、確かな基礎学力を身につけたうえで志望校対策に取り組むことで、その効果をより高めることができると考えています」

続いて、志望校対策の意義について聞きました。志望校対策の意義は大きく三つあるといいます。一つ目は「形式への慣れ」です。制限時間や出題形式に慣れることで、本番でも落ち着いて力を発揮できるようになります。これは、過去問演習や類似形式の模擬試験を通じて養うことができます。

二つ目は「頻出単元の強化」です。志望校で頻繁に出題される単元について理解を深めておくことは重要です。ただし、これらはいずれも、各分野の基礎学力を十分に身につけたうえで取り組むべきものです。基礎を固めてから志望校対策を行うことで、



その効果をより高めることができるといいます。

一般的には、志望校に特化した対策がオンラインの価値のあるものととらえられることが多いのですが、必ずしもそうとは限りません。「わたしは算数を担当しており、私立中学校の数学の先生方とお話をさせていただく機会も多いのですが、お話を伺うと、学校のなかで、塾の教材や市販されている参考書・問題集を資料として取りそろえられていることが多いのです。問題文の表現が妥当かどうかを確認するために用いられることもあるようですが、受験生がどんな内容を勉強してきているのかを把握するという目的もあるようです。なかには、受験生の併願先となる他校の問題を研究しているケースもあります。こうしたことを考えると、実は、その学校で過去に出題された問題ばかりを追いかけるのではなく、最近の入試でよく出題される内容を幅広く学習しておくほうが、入試で“当たる”可能性が高いことがわかります。どうしても志望校に特化した対策をしたほうが合格に近づけると考えてしまいがちですが、実際のところは幅広く学習しておいたほうが有利になる可能性が高いのです」

では、なぜ志望校に特化した対策が価値あるものととらえられているのでしょうか。それは、志望校対策に取り組むことで、「必要なことを進めている」という安心感を得やすいためです。この「安心感が得られること」が、志望校対策の三つ目の意義といえます。入試本番に臨む際、「しっかり対策してきたから大丈夫」と自分を奮い立たせられることは、実力を発揮するうえで重要です。そのため、こうした安心感を「心理的なものに過ぎない」と軽視することはできません。

一方で、その安心感だけですべてが解決するわけではないのも事実です。受験生や保護者の方は、どうしても何らかの安心感を求めがちですが、それが行き過ぎると、目先の成果にとらわれてしまうおそれがあります。こうした状況を避けるためにも、志望校対策の効果と限界を正しく理解しておくことが、適切な学習を進めるうえで非常に重要です。

### サピックスのSS特訓がリニューアル 今の入試状況を踏まえたよりの確な対策に

サピックスでは、6年生の9月以降、日曜日にSS(サンデー・サピックス)特訓という志望校別講座を実施していますが、今年度から授業形態がリニューアルされます。

#### ●SS特訓 リニューアル内容

9:00 ~ 18:30  
〈必修〉志望校別授業 80分×6コマ  
(算数2コマ・国語2コマ・理科1コマ・社会1コマ)  
18:40 ~ 19:40  
〈選択〉基礎知識確認講座  
理科または社会 60分(希望制/別料金)

まず、志望校別の授業は、1日6コマ(1コマ80分)実施する形式に変更されます。内訳は算数が2コマ、国語も2コマで、理科と社会が各1コマずつです。また、志望校別授業の後には、選択制(別料金)の講座として「基礎知識確認講座」(理科または社会)が新たに設けられます。

志望校に特化した対策は“万能”ではありませんが、適切な時期に適切な方法で取り組むことで、その効果を最大限に引き出すことができます。サピックスの志望校対策の要となるのが、このSS特訓です。今回の変更により、複数の学校への対策が可能となり、より幅広い対策を実現できるようになります。さらに、志望校別対策と基礎力の強化を両立させることで、近年の入試で求められる総合力の養成につなげていきます。

現在の入試状況に合わせてブラッシュアップされたサピックスの志望校対策に、ぜひご期待ください。

